

〈幼保小連携〉

育ちと学びをつなごう

～幼稚園と小学校の相互理解～

学校教育課通信

令和6年11月1日(金) 第202号

編集・発行：県南教育事務所長 橋本 美弥子

幼小連携の取組紹介

今年度も後半に入り、教育活動の益々の充実が図られていることと思います。各学校における幼小連携の取組はいかがでしょうか。幼児教育と小学校教育をつないでいくためには、双方の教員が対話を通してそれぞれの教育内容に対する理解を深めていく必要があります。各地区で工夫した取組が行われているところですが、その中でいくつか取組事例をご紹介します。

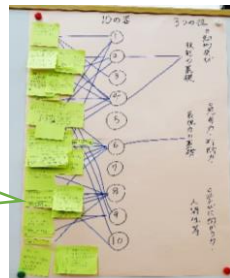


五箇地区幼小連携事業 事後研究会の様子より

棚倉幼稚園保育公開より

棚倉幼稚園では、今年度6月に保育公開を実施し、近隣の幼稚園や棚倉小学校から先生方が参観に訪れました。事後研究会では、子どもたちの姿について話し合い、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」をもとに協議内容をまとめました。小学校からの参観者からは、「幼稚園で子どもたちがこんなに学んでいることを初めて知った。」「園児は、できることがたくさんあることに驚いた。」といった声が聞かれました。まずは、実際に保育を見て、子どもの具体的な姿から幼児教育についての理解を深めていました。

協議を通して、遊びの中に見られる学びや教師の関わり方について共有することができました。



大沼幼稚園・白河第四小学校（学級・授業づくりセミナーより）

夏に行われた学級・授業づくりセミナーの中で、幼小連携講座として大沼幼稚園・白河第四小学校の発表が行われました。日常的な情報交換や教育課程に関わる連携など、様々な取組が紹介されました。合同運動会の実施、幼稚園教諭による1年生の授業参観、幼小交流（生活科、給食の試食）、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの検討会議、東北中学校区研修会での保育参観の実施など、地域の実態、子どもたちの実態を踏まえた幼小連携の取組が進められています。



参観者からは、ぜひ自分の園・学校でも取り組んでみたいとの感想が寄せられていました。

五箇地区幼小連携事業より

五箇地区幼小連携事業では、6月に1年生、9月に幼稚園の合同授業研修会を実施しました。保育公開では、「幼児にどのような力が育とうとしているか」や「小学校教育とのつながり」を参観の視点として、子どもたちの姿を見取り、協議を行いました。子どもたちの学びや教師の関わり方、環境構成の工夫など、幼児教育について理解を深めていました。また、協議の中で、担任の関わりの意図を確認したり、小学校とのつながりについて話し合ったりすることを通してそれぞれの教育の相互理解を図ることができました。



子どもたちは、40分間ずっと生き物の家づくりに夢中になっていました。



年長児が年少児の片付けを自然と手伝っている日常的な姿も捉えることができる参観となりました。

小学校や中学校に研究協議会があるように、幼児教育においても「幼児教育研究協議会」があります。ここ数年、幼小連携に焦点を絞った研究が継続されており、令和6年度から令和7年度にかけて「**幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について**」を協議主題として取り組んでいるところです。目指すのは、子どもの発達段階を踏まえた教育の連続性・一貫性であり、小学校の協力が不可欠です。幼稚園と小学校の垣根を超え、連携の推進に取り組んでいきましょう。

《幼児教育理解に向けた参考資料》



遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”
～「やってみたい」から始まる学びの芽(知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力)の育成～
(動画コンテンツ)

幼児教育と小学校教育とのつながりが分かりやすく紹介されています。



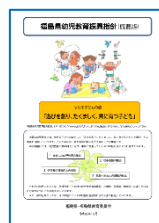
幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？
(幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料)第1章



福島県幼児教育振興指針
福島県・福島県教育委員会
令和6年10月



福島県幼児教育振興指針(概要版)
福島県・福島県教育委員会
令和6年10月



福島県における幼児教育の目指す方向性について示されています。ぜひご活用ください。